

剣道を通じてはぐくみたい 逃げない・諦めない気持ち

「全国の強豪選手の戦いを見て、まだまだがんばらなければと思った」と決意を新たにしたのは、9月に長崎県で開催された「第63回西日本各県対抗剣道大会」に出場した西坂純一さん。

西坂さんが剣道を始めたのは、小学4年生のとき。体は弱く、「強くなりたい」という一心で地元道場「乙女武友会」の門をたたく。

以来、約30年にわたり剣の道にまい進。国体の県予選で



西坂 純一さん
Nishizaka Junichi

〔田原区〕

にしざか・じゅんいち / 第63回西日本各県対抗剣道大会に、県チームとして出場し優勝。昨年からは甲佐中剣道部でコーチを務める。(前列中央)

3位に入賞し、県チームの一員として推薦されて同大会に臨んだ。結果、6年ぶり10度目の頂点に輝いた。「大会に出られるだけでもうれしかったのに、まさか優勝するとは」とその喜びを語る。

「剣道は克己（こつき）、つまり自分に克（か）たなければ相手に克てない。勇気を出して、自分自身の気持ちを全てぶつけて立ち向かっていく

ことで勝機が出てくる」と西坂さん。「自分に克つことは、社会人としても大切。剣道で学んだことは、社会生活でも生かされている」と話す。

20歳ごろから、後進の指導に携わりたいと考えていたが、恩師から『人を指導する前に、自分自身の実力・知識・経験を身に付けなさい』と叱咤激励を受けて、極限まで自分を試したいと決意。腕を磨き続けた結果、念願だった七段審査に合格。昨年度からは、甲佐中学校でコーチも務めている。目標だった七段に昇進したことから、後進の指導に携わるといふこと1、2年の大きな環境の変化に、「運命的なものを感じた。これからは、剣道を通じて社会貢献していきたい」と、気持ちを引き締める。

子どもたちの将来を見据え、礼儀作法などを軸に指導する西坂さん。「社会に出たとき、剣道で培った姿勢や、逃げない・諦めない気持ちが大切になる」と語る言葉には、地域の宝である子どもたちへの愛情であふれている。